

神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター・

神戸大学大学院海事科学研究科海事科学教育開発センター

<シンポジウム>

マリタイム・ガバナンスへの日本の貢献を考える

○日 時：2018年3月19日(月) 15:30~17:30 (開場 15:00) (終了後、懇親会)

○場 所：神戸大学深江キャンパス・梅木Yホール

(<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/map/>)

(神戸市東灘区深江南町5-1-1 阪神電車「深江」駅下車、徒歩約5分)

○参加費：無料 (懇親会は4,000円の会費制です。)

○参加申込：事前申込制 (Email mori-na@maritime.kobe-u.ac.jp : Tel & Fax 078-431-6318)

(当日、会場でも受け付けます)

船舶が世界の海を舞台に活動することから、海事分野の取組は必然的に国際的な取組みとなります。海事分野のルールは国連の専門機関である国際海事機関 (International Maritime Organization: IMO) を中心に、各国が連携、協力して世界的なルールとして決定されます。世界の主要な海運国・造船国である我が国も IMO 設立以来の理事国として世界の海事分野のルール作りに積極的に貢献しています。最近では2012年1月~2015年12月にかけて關水康司氏が事務局長を務め、2018年海洋環境保護委員会 (MEPC) 議長には齋藤英明氏が選出されたところです。

IMOにおいて世界の海事分野のルールが策定された後、各国が条約を批准し、各国の国内ルールが策定され、各国の海事分野の調整・コントロール (統治) がなされることとなりますが、逆に考えると各国の海事分野の調整・コントロール (統治) が世界標準となることが当該国の利益に繋がりが望ましいとも考えられます。また世界の海事分野のルールが策定されたとしても、そのルールの主旨が各国の国内ルールに100%反映され実施されるのかという問題も生じます。このような背景から、産業界と政府にとって利益となりかつ世界海事社会の繁栄に資する理論的な裏付けに関する研究が必要であると考えられます。

本シンポジウムでは、(公社)日本海難防止協会ロンドン研究室に在籍されロンドンでの海事事務に精通されている長谷部氏、海技振興センターに在籍され我が国の“船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約 (STCW)” 対応調整に関わられている岡村氏、フィリピンの船員教育制度・海技資格制度や海外の水先制度に明るく海事リスクマネジメントに関して研究されている関西大学政策創造学部教授の羽原氏を招き、世界の海事分野の調整・コントロール (統治) 『マリタイム・ガバナンス』への日本の貢献を担う今後の海事研究について展望を伺い、討論します。

《プログラム》

※演題は変更する場合があります。

15:30 開会挨拶 西尾茂・神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター長

15:40～16:10 第一部：国際海事社会の最新動向 ～欧州域における牽引力の存在～

「欧州域のマリタイム・ガバナンス」

. 長谷部 正道・公益社団法人日本海難防止研究会 欧州代表
国際海事機関 国際海事法規研究所 理事／神戸大学 客員教授

16:10～16:40 第二部：アジア域連携の必要性

「アジア域におけるマリタイム・ガバナンススキームの構築」

. 羽原 敬二・関西大学政策創造学部 教授
神戸大学 客員教授

16:40～17:10 第三部：我が国の国際海事社会でのイニシアティブ

「IMO 船員分野における我が国の貢献について」

. 岡村 知則・一般財団法人海技振興センター技術・研究部 主任研究員

17:10～17:25 総括：我が国における真の産学官の連携とは

「神戸大学の果たす役割」

. 内田 誠・神戸大学海事科学部長・海事科学研究科長

17:25 閉会挨拶 瀧 真輝・神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター
国際海事政策科学研究部門長（代理：廣野康平）

17:30 (閉会)

18:00～19:00 懇親会（梅木ホール）